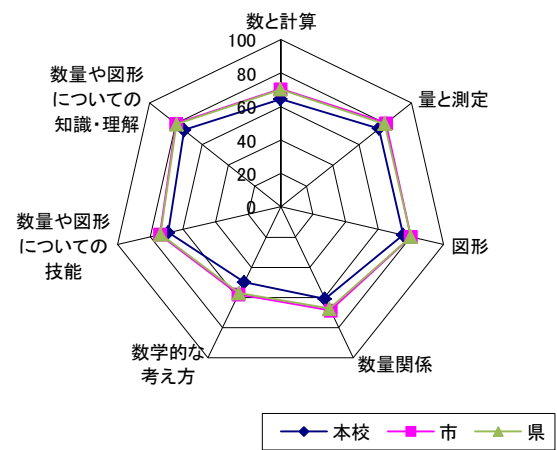


宇都宮市立平石北小学校 第4学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	64.5	70.5	70.3
	量と測定	75.3	80.4	79.6
	図形	75.0	79.8	79.7
	数量関係	60.9	68.7	67.5
観点	数学的な考え方	50.0	58.0	57.2
	数量や図形についての技能	68.9	74.1	73.7
	数量や図形についての知識・理解	73.7	79.9	79.5



★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	・宇都宮市の平均を下回っている。 ・4位数-4位数の繰り下がりのひき算では、正答率が市の平均より10ポイント以上高い。3位数×1位数のかけ算や整数-小数の計算問題では、正答率が55%で市の平均より20ポイント以上低くなっており、児童の理解の個人差が大きい。	・宮っ子学力ステップアップシートや計算ドリルによる復習を継続的に実施し、習熟を図る。 ・機械的に計算の仕方を理解するだけでなく、式の意味についても図などを利用して指導する。
量と測定	・宇都宮市の平均を下回っている。 ・長さを換算する問題の正答率は94%で、市の平均をやや上回っているが、重さの問題で正答率が低く、特におよそ1kgのものを選ぶ問題では正答率が57%で、市の平均を15ポイント下回っており、児童の理解の個人差が大きい。	・実際に長さを測ったり、重さを量ったりするなど、体験を通して長さや重さの感覚を身に付けられるようにする。 ・単位の学習では、長さや重さでは単位量あたりの実物を用意したり、時間では1分や1秒の長さを体感させたりして、個別に理解を深められるようにする。
図形	・宇都宮市の平均をやや下回っている。 ・円と球・三角形の基本的な知識について、児童の理解に差がある。	・図形をかく練習を通して、多角形の定義を理解するとともに、正確に作図ができるようにする。 ・立体の学習では、実物を用意するなど個別に指導し、視覚的に形の特徴を捉えられるようにする。
数量関係	・宇都宮市の平均を下回っている。 ・□を使った式の問題では、正答率が71%で市の平均より10ポイント下回っている。グラフを読み取る問題では正答率は89%で、市の平均とほぼ同じである。	・社会や理科、総合的な学習の時間の学習とも関連させてグラフのかき方を指導し、進んでグラフが活用できるようにする。 ・式の中の□について、図などを利用して□の意味を理解できるようにする。